第135号
令和６年７月
July, 2024
季刊 Quarterly

でんえん わがまち

My town Den-en-chofu

発　行　地域力推進
　　田園調布地区委員会
編　集　でんえんわがまち編集委員会
事務局　田園調布特別出張所
　　大田区田園調布1-30-1
　　TEL 03-3721-4261
　　http://www.city.ota.tokyo.jp/

大田区における SDGs の取組

SDGs（Sustainable Development Goals）：平成27（2015）年9月開催の国連サミットにおいて採択された2030年までに達成すべき持続可能な開発目標です。国際社会共通の目標として、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されています。

【17のゴール】
01 貧困をなくそう 02 飢餓をゼロに 03 すべての人に健康と福祉を 04 質の高い教育をみんなに 05 ジェンダー平等を実現しよう 06 安全な水とトイレを世界中に 07 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 08 働きがいも経済成長も 09 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう

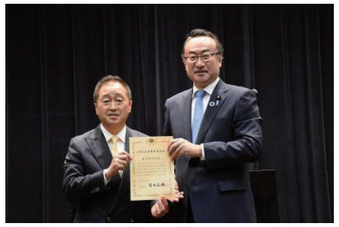
SDGsというと環境問題として認識されることが多いですが、実は環境問題のみではなく、人権問題や健康や、福祉など幅広い分野にわたる目標で構成されています。

これらのゴール・ターゲットは、国家レベルのみならず、産業界や一般市民などの多様な主体が一丸となって連携・協力しなければ達成することが困難です。

こうしたなか、市民生活に最も密着し、実態に即した、実効性の高い施策を推進する自治体行政の責任と役割が重要視されています。

内閣府認定 SDGs 未来都市おおた

大田区はSDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市として、内閣府から2023年度の「SDGs未来都市」に選定されるとともに、その中でも特に優れた先導的な取組を行う「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。



岡田地方創生担当大臣（右）から選定証を授与される鈴木区長（2023年5月）

また、大田区はSDGs未来都市選定を契機に、区民・企業・関係団体等、多様な主体のSDGsに関する行動変容を一層促し、具体的な取組につなげていくことが重要と考え、大田区オリジナルのSDGsロゴマークを作成しました。

大田区独自ロゴマーク

区内在住・在勤・在学の方を対象にロゴマーク案を募集したところ87件の応募をいただき、図の作品に決定しました。

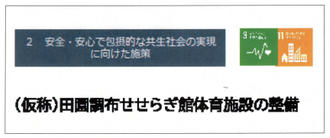
作成者は高橋麻衣さん（区立中学校2年生）で、「大田区にある羽田空港の飛行機をモチーフに、空を飛び、変わりゆく天気に対しても前に進んでいく飛行機のように、大田区も変わりゆく時代に対してどんどん前に力強く進んでほしい。」という想いが込められています。

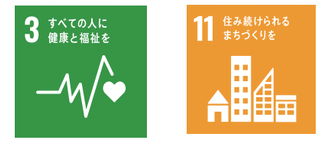
SDGs 未来都市 大田区

大田区独自のSDGsロゴマーク

田園調布地区での取組

田園調布地区では（仮称）田園調布せせらぎ館体育施設を、体育館としての機能に加え、防災備蓄倉庫を備える形で整備を進めています。体育館という点から３番【すべての人に健康と福祉を】と、防災備蓄倉庫を備えるという点から11番【住み続けられるまちづくりを】を掲げています。





田園調布特別出張所でもさらなる窓口の電子化や防災力の強化などさまざまなSDGsの取組をコツコツと進めています。

みなさまも「一日一善」ならぬ「一日一SDGs」から国際目標に貢献してみませんか。

（田園調布特別出張所 所長　木下智弘）

田園小学校での SDGs の取組

１面に続き田園調布小学校でのSDGsの取組を紹介します。

2023年度５年生の総合学習でSDGsの取り組みについて学習しました。

SDGsの考え方について学んだ後、17の目標の中から実際にできることをそれぞれ選びました。選んだ目標ごとにグループをつくり、何ができるかを子どもたち自身で具体的に考え実践しました。

最後は実際に取り組んだ内容をクラスで発表し合いました。

例えば、「**7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに**」を選んだグループでは、自宅で電力の無駄遣いがどのくらいあったかを記録しました。タブレットを活用し、記録したデータを元に浪費電力を計算して数値化しました。

また、「**12. つくる責任 つかう責任**」を選んだグループでは、図工室で出るゴミに注目しました。本来は廃棄されるはずの木材やペットボトルのふたをリサイクルし、ペン立てやキーホルダーを製作しました。

調べ学習で終わることなく、自ら考え実践したことで、より深くSDGsについて学ぶことができました。　（田園調布小学校PTA）

子どもたちの短歌

田園調布中学校　三月に卒業した生徒の短歌（続）

「たのしみは」で始まり「～とき」で終わる形の言わば「独楽吟」形式の短歌です。

たのしみは　いつもの面子　飯食べて　どうでもいいことで　はしゃぎ合うとき
落合 将真

たのしみは　夜中にラップ　韻踏んで　リズムぴったり　言葉出るとき
関根 成哉

たのしみは　なかなか取れない　満点を　最後のテストで　ゲットしたとき
高野 わこ

受賞報告

おめでとうございます

- 大田区 区政功労者：
  古田中 武彦氏
  根岸 明子氏
  黑崎 あつみ氏
- 明るい選挙推進委員 永年功労者：
  高木知常氏
- 大田区交通安全功労者：
  落合 光枝 氏

新副校長（４月１日付）

田園調布中学校
松尾 英治 副校長

わがまち情報（7月～9月）2024年

- 7月21日（日）
  親睦会館フェス
- 7月22日（月）～24日（水）
  わくわくスクール
  （田園調布小学校）
- 7月中旬～下旬（予定）
  夕涼み会（福徳商店街）
- 8月3日（土）・4日（日）
  親と子の納涼盆踊り大会
  （調布大塚小学校）
- 8月31日（土）・9月1日（日）
  八幡神社祭礼
  ラジオ体操（祭礼中）

新署長・新校長の紹介

飯田 雅英 署長
田園調布消防署
（2024年4月1日付）
前任：第十消防方面 副本部長
出身：東京都調布市
特技：肩揉み（少林寺拳法）
趣味：読書（東野 圭吾、近藤 史恵）
抱負：管内に居住、勤務されている方々の声を聴き、期待に応えていきたい。

田谷 至克 校長
田園調布中学校
（2024年4月1日付）
前任：大田区立御園中学校
専門科目：英語
出身：静岡県
部活動：ソフトテニス
性格：ねばり強い
抱負：地域の皆様にとっても「魅力ある学校」「誇れる学校」となるよう全力を尽くします。

編集委員会 委員構成（2024年4月改選）

	古田中 武彦	（地域力推進田園調布地区委員会）
	増沢 和美	（調布大塚自治会）
	稲垣 芳隆	（田園調布一丁目東自治会）
	染谷 優子	（田園調布一丁目清交会）
副編集長	三輪 順子	（田園調布親睦会）
	平山 智恵	（田園調布二丁目自治会）
	兒嶋 和歌子	（一般社団法人 田園調布会）
	三島 通利	（田園調布親和会）
	落合 雅子	（田園調布西町会）
編集長	出口 清孝	（田園調布協和会）
	落合 光枝	（民生委員児童委員協議会）
	原　直子	（青少年対策地区委員会）
	岡弘 奈々	（田園調布小学校PTA）
	瀬口 景子	（田園調布小学校PTA）
	—	（調布大塚小学校PTA）
	小島 佐知子	（田園調布中学校PTA）

編集後記

令和６年も半分ほど過ぎた。ようやくコロナ明けと言えるのか、とりあえず諸々の制約なり規制はなくなって、通常の催物や行事も出来るようにはなった。

でも何かちょっと違う。この３，４年で、要不要の区別がはっきりしたり、無駄を省いたり、ある意味整理できた面もあるとは思うが、人同士の接点が希薄になったように感じているのは私だけであろうか。

確かにラインやメールでかなりの部分で伝達、やり取りできてしまう。それでもいいのかと つい思ってしまう自分もいるが、飛躍元年といかないか。（編集委員 稲垣芳隆）

でんえんわがまちのHP：
カラーで記事が見られえます

田園調布中央病院　緊急医療救護所訓練「トリアージ」

救護所テント内で軽傷【緑】と判断され、応急処置が行われる

中等症者・重症者は、院内で専門の医師・看護師から治療を受ける

大規模地震発生時には大田区内では15箇所の病院前に緊急医療救護所を設け、トリアージ（治療優先順位の決定）および軽傷者処置を行うことで病院機能を守ります。

田園調布中央病院では、2024年3月2日（土）、緊急医療救護所訓練を行いました。

【訓練実施内容】区内で震度6弱の地震が発生し、発災から72時間までに緊急医療救護所を開設するという想定で訓練は実施されました。田園調布駅前広場に設置された大型のテント内に次々に集められる傷病者に対し「トリアージ」を行います。歩行可能な軽傷者には【緑】のトリアージと判断され、医師（看護師・柔道整復師等）が治療を行い、必要に応じて薬剤指導を行い帰宅を促します。歩行が難しい中等症以上の傷病者には【黄】中等、【赤】重症のトリアージ判断が行れ、医師・看護師等による応急処置の後、ストレッチャーで病院へ搬送し、院内で治療措置等の医療行為を実施します。実際には他の病院への搬送も行うことになります。

一連の訓練は反省も含め1時間ほどになり、これを2回実施しました。

今回の訓練は田園調布中央病院を中心として、多数の団体の参加によるものです（田園調布医師会、大田区薬剤師会、医療職ボランティア、大田区）。また、傷病者役は田園調布地区の自治会・町会の会員でした。

訓練を総括しました田園調布中央病院 石田院長のお話です。「COVID-19が収束し、5年ぶりの緊急救護所訓練となりました。地域の皆様と協働してトリアージや転院搬送について手順を確認することができました。今年は各地で大きな地震が発生しており、災害時に地域を支えられるよう取り組んで参ります。」

（編集委員長　出口清孝）

田園調布親和会 防災訓練　2024年2月18日（日）

去る2月18日（日）、田園調布親和会では多摩川台公園で防災訓練を開催しました。今回の訓練はコロナ禍での中断と同時に親和会初の単独での開催でもありましたが、幸い天候にも恵まれ、参加者は関係者を合わせて100名にも及び、防災意識の高まりを実感しました。

正月に発生した能登半島地震のこともあり、訓練内容は、「地震」を主体と考え、屋外での起震車と煙発生の体験、スタンドパイプ使用の放水訓練などです。

一方室内では、田園調布特別出張所の指導によりDVDを視聴しながら地震発生時の対応を仮想体験しました。屋外の訓練・実体験と室内での講座の組み合わせは参加者に好評でした。

訓練後のアンケートから、今後も地道に防災訓練を続ける事の重要さと、「隣り近所のコミュニケーション」の大切さを改めて認識しました。

最後にご協力頂いた田園調布消防署、消防団第一分団、田園調布特別出張所と防災危機管理課、公園管理事務所、田園調布警察署の皆様に厚く御礼申し上げます。

（田園調布親和会　三島通利＋編集委員会）

田園調布小学校 改築計画

田園調布小学校では、令和6(2024)年7月下旬より令和14(2032)年度末を目途に校舎の改築工事を行います。

「多様な学習環境と地域連携を促す学校環境」「周辺環境に調和した緑豊かな学校づくり」「誰もが使いやすい、安心・安全な校舎」を基本コンセプトに、設計を進めてまいりました。

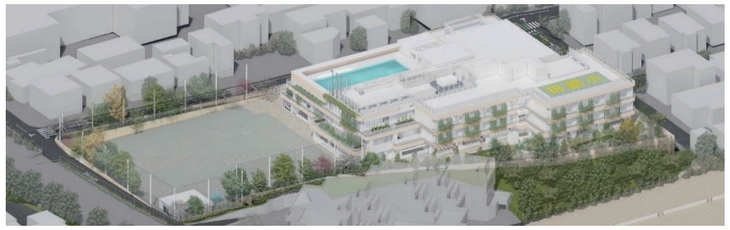
改築後の校舎校庭の全体像やスケジュールは、図と表のようになります（提供：大田区教育委員会）。本年度は、まず既存西側校舎の一部改修工事、プール・遊具解体工事を行います。東門が工事専用の出入口となり、現在のプールとその横の菜園とウォークトップが仮グラウンドになるため、校庭の一部とともにフェンスで囲われます。

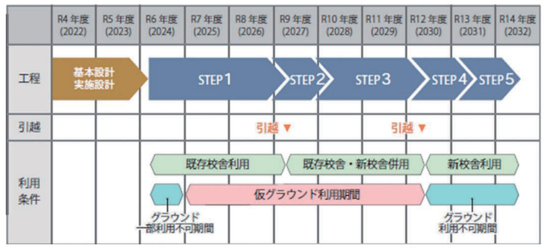
このため、東昇降口が現在の西校舎1階に移設されます。学校行事を含む教育活動も一部変更して行っていく予定です。

具体的には、例年秋に開催している運動会を6月8日（土）に行います。水泳指導は7月までとする予定です。毎年恒例の「わくわくスクール」については、昨年並みの計画で実施します。また、令和7(2025)年度に創立100周年を迎えるため航空写真を5月に撮る予定です。

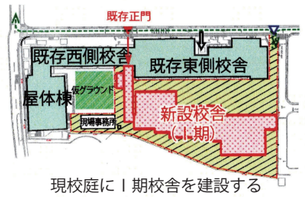
皆様の御理解御協力をよろしくお願い致します。

（田園調布小学校長 本田 幸彦）

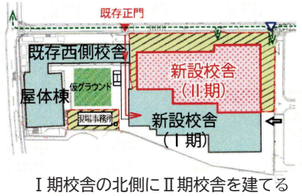

↑完成予想鳥瞰図



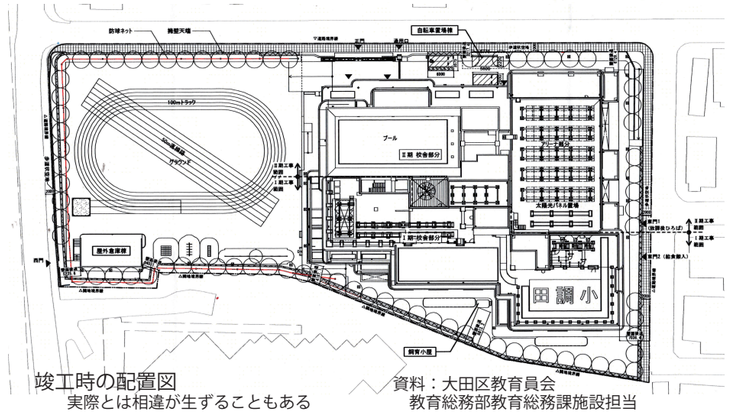
←全体工事スケジュール（予定）



現校庭にⅠ期校舎を建設する
STEP 1：新校舎建設（Ⅰ期）



Ⅰ期校舎の北側にⅡ期校舎を建てる
STEP 3：新校舎建設（Ⅱ期）



竣工時の配置図
実際とは相違が生ずることもある
資料：大田区教育員会
教育総務部教育総務課施設担当

田園調布小学校 地域教育連絡協議会の取り組み

本校では、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域社会と連携して、一体となってこどもたちの健やかな成長を図るとともに、地域ぐるみで学校運営を支援し、地域教育の振興に寄与することを目的として、地域教育連絡協議会を年に4回開催しています。

構成員は、学区域の各町会長等をはじめ田園調布特別出張所所長、青少年対策田園調布地区委員会副委員長、同窓会会長、民生児童委員、学校支援地域本部会長、PTA会長の13名と本校管理職と幹部職員です。

例年、第1回の会合では、学校の経営計画や学校行事等の年間計画について説明しています。

第2回の会合から、学校公開での授業の様子や運動会等の学校行事を参観していただき、御意見や御感想を頂戴しています。

12月の第3回会合では、2学期末までの教育活動の中間報告会を行いました。各学年の主な教育活動や児童の様子について振り返りました。併せて、音楽会も御鑑賞いただきました。

2月の第4回では地域教育連絡協議会委員による「学校関係者評価」を実施しました。学校で取りまとめた教育活動の「自己評価」が、適正に評価されているか、委員の皆様に評価をしていただきました。

結果は学校のホームページで公開をしています。

（田園調布小学校長 本田幸彦）